

【給食協会賞】 思い出の給食

安城北部小学校

喜名 志帆

私はこの小学校生活の給食の中で、一番、牛乳に思い出があります。

と言っても、牛乳が好きだった訳ではなく、むしろ最初の方は苦手でした。なぜかというと、笑われるからです。私が小学一、二年生の時は、牛乳はビンでした。そのため、牛乳を飲むとあごに牛乳がついてしまい、

「おひげだー、おひげだー。」

と笑われるのです。なので、笑われるのが苦手だった私は、牛乳も苦手になってしまいました。そしてそれは小学三年生ごろになって、ビンがパックになってもなんとなくいやだなと思ってしまい、変わりました。

そうしている内に時が過ぎて五年生になりました。その日の四時間目は体育でした。何をやっていたのかは忘れましたが、その日は夏で暑く、とにかくのどがかわいていました。でも、水を飲むひまがなかったり、飲みに行くのがめんどくさかったりして、十分に水が飲めなかったのか、のどはかわいたままでした。そして、不運な事に、その週は給食当番だったので、私は大急ぎで手を洗ったり、白衣を着たりなどあわただしく動かなければならず、水は一滴も飲めませんでした。くたくたになりながら給食当番を終え、机を見ると、美味しそうな給食とともに、牛乳が置いてありました。そして、その日は牛乳がとても飲みたくなって、たまらなくなりまし

た。なので、その日はいただきますを言った後、すぐにストローをさして、牛乳を飲みました。すると、たちまち口の中にほんのりと甘い、カシューナッツの様な味が広がりました。それは、本とかでよくある、無人島に行った人が何日かぶりに食べる食べ物「それが今までに食べた○○の中で一番美味しかった。」と言うように、昨日までも同じものを飲んでいたとは信じられないぐらいの美味しさで、思わず感動してしまいました。この事があってから、私は牛乳が苦手じゃなくなりました。今思うと、なんでビンじゃなくなったのに苦手だったんだろうと不思議に思うし、ものをイメージで決めちゃったら、本当の美味しさにたどりつけないことを学びました。

給食には毎月たくさんのメニューがあります。そして、その中には私のまだ知らないメニューや、実は美味しいメニューがたくさんあると思います。なので、私はこれから給食を美味しく食べて、本当の美味しさを見つけていきたいです。